

本願力

横浜別院だより



別院本堂屋根瓦・雨樋修繕工事

(二〇二〇年四月二十四日撮影)

雑感 九

輪番 坂田 智亮

今年は、春の息吹と花鳥風月に心地よさを想う時を見失うかの如き、新型コロナウイルスが世界中に蔓延して様々な分野に深刻な影響をもたらしている。あらゆる未来への希望が曖昧となって、私どもの生活を脅かし、これまで経験したことのないような現実が到来しています。この困惑と不安のただ中で、これまでの生活様式までもが問われるような深刻な状況に身を晒しています。このようなとき、私どもは否応なしに生きるこの意味と意義を考えざるを得ないわけで、この状況から何が問われているのか、どうこの現実に対処していくべきなのか、この課題は途轍もなく広く深く茫洋として明快な道筋が見いだせないで終わるようにも感じています。このところの新聞紙上に「コロナ禍」と言う表現があることに私は少々違和感を抱いています。「吉凶禍福」吉と福は歓迎、受容すべきもので、凶と禍は拒否、排除すべきものと言うことになるのでありましょうか。コロナ禍とはコロナウイルスが招いた災い、つまり、コロナは拒絶して避け、打ち勝つものであると言う、危機的災厄的な不幸な状況と言うことでしょうか。勿論、新型コロナウイルス拡大を容認し是とするつもりは毛頭なく、医療関係従事者の感染症に対する献身的な姿勢とご努力には敬意を表しつつも、敢えて言うなれば、どんな社会状況が露呈したとしても我々の

〒234-0051

【発行】真宗大谷派 本願寺横浜別院
横浜市港南区日野一十一-八

FAXTEL (045) 841-1343
(045) 841-1342
(http://www.yokohama-ootani.com)

生きている世界そのものであって、幸とか、不幸とか言っているのは、人間中心の都合の論理ではないかと思うのです。長い間、たゆまない努力を重ね人類は自由と平和、つまり、幸福を求め発展してきたのだという結果としての現今であります。それと同時に、すべては自然の摂理・道理によって、実は動いているということが基本にあります。原点に帰れば、人間存在の真理に覚めて生きる歩みを聞き訪ねていくことが大切なのだと痛感しているところあります。つまり、どう生きるかよりも生かされている「いのち」への共鳴と共感ということでしょうか。生まれたこと、生きることの目的の探求と生活手段の整備とは質の異なりがありそうです。

自己とは何ぞや、これ人世の根本的問題なり

(清沢満之)

私は数十年前先輩に誘われて福岡マリンメッセに数値計算や情報処理をするという画期的な白黒コンピュータの展示会に出向いたことがある。そこで見聞した世界に驚嘆、驚愕した感覚を今でも覚えている。これからの社会は、もう我々の想像をはるかに超えて異次元の世界に突入して、あらゆる分野の科学技術の発展思考は止まるところを知らず、人生の在り方、価値観・人生観は多様化していくであろう。そして、人間の充足の限界に何の展望も持ち得ず、ただ欲望満足にひた走りグローバルな世界を構築して、豊かさを追い求め高度成長をひた走ってしまうであろうという予感があったのかもしれない。そして、手に入れたはずの豊かさの恩恵は瞬時に瓦解したり、同時に一部地域の人々が犠牲になるという構造を必ず生み出し、現に今も未解決のままこの社会に残存し再生産しているとするならば、これから、また惹起しうる現実の問題に学ぶべきことは、今なお、山積していると思うのです。人々はどのよ

うな地球規模の社会を目指し、人類の幸福な世界を描いてきたのか。決して人間の「いのち」を見誤ってはならない、生き方いや「いのち」の危機である。あらゆる社会的立場を超えて、人間の存在の平等性を証明しているのは、敢えて言うならば社会の底に横たわり、社会の犠牲となり、見棄てられつつある何の力も持てない「弱き人」である。決して忘却してはならない「弱き人」この人々こそが「いのち」の尊厳という根本問題を照らし出す人々であろう。私たちは心許し愛すべき「朋」を見失ってはならない。

別院本堂屋根瓦・雨樋修繕工事 (四月十日～五月四日)

昨年九月の台風十五号、十月の台風十九号は甚大な被害をもたらし、今現在も復旧作業中の地域もあります。横浜別院でも強風により本堂屋根瓦が剥がれ、雨樋（あまとゆ）が吹き飛ぶなど被害がありました。四月から約一ヶ月をかけて修繕工事を行いました。



→ 被害の状況（屋根瓦）

← 被害の状況（雨樋）



← 修繕後の本堂・雨樋



新型コロナウイルス感染症に 対する当別院の対応について (二〇二〇年六月一日現在)

冠省、現在、新型コロナウイルス感染症の流行が深刻化し、日常生活が予断を許さない状況になってきております。各種報道のとおり、五月二十六日に緊急事態宣言が解除されま

したが、樂觀できない状況が続いております。一刻も早く感染症が収束することを念じております。

このたび、当別院においては、次の感染予防を徹底したうえで法務、行事を勤めさせていただきます。

何卒、感染予防にご配慮いただき、皆様方のご理解・ご協力の程、よろしくお願い致します。

① 法要前には必ず手洗い・手指の消毒を厳守ください。また、参列者にも同様に手洗い・手指の消毒を徹底いただきます。

※消毒液を玄関・本堂入り口に用意しております。

② 常に咳エチケットを心掛け、勤行・読経の際にもマスクを着用し、また参列者にも同様にマスクの着用を徹底いただきます。

※マスクをお持ちでない方は、別院で多少の用意があります。お持ちでない方は、お声かけください。僧侶におきましても常時マスク着用にて対応いたします。

③ 感染リスクを減らすために、3つの「密」（密閉空間・密集場所・密接場面）を避けてください。

※隣の方とは椅子を空けて着席いただき、法要毎には喚起を徹底いたします。

④ 少しでも発熱など、身体の不調や不安がある方は参列をお控えください。

⑤ 日常的に自己管理を徹底いただき、感染者の媒介者とならないように留意ください。

※ご不明な点がございましたら別院までご連絡ください。(二〇二〇年六月一日現在)

【神奈川四ヶ組（横浜・川崎・三浦・湘南）のうぐき】

仏華講習会（寺族研修会）

講師 洲崎善範師（「ちいちの華」会員）

（二月二十六日）

神奈川教化センター伝道部主催で仏華講習会を開催しました。これまで何度か仏花を立てる研修ができないかという意見があり、今回大阪より洲崎善範師にお越しいただき開催する運びとなりました。本堂には、莊嚴として仏花を立てることが基本ですが、なかなか仏花の立て方を教わる機会がなく、その寺院ごとで、自己流で立てられている方が多くおられるとのことでした。

参加者は神奈川四ヶ組寺院の坊主さんが多く、三名で一班を作って作業を始めました。午前は、洲崎先生より講義をいただきました。

「立花（りっか）とは、室町時代後半から江戸時代初めにかけて完成した、最も伝統あるいけばなのスタイルです。古来より神仏へ供えられてきた花は、室町時代に邸宅を飾る花（座敷飾り）へと発展していきま

る仏具です。立花には「七九（しちく）の道具」と呼ばれる役枝が決まっています。

「真（しん）」という枝を中心に、「正真副、請、控枝、流枝、見越、胴、前置」の九つです。役枝を使い、左右を非対称にしながらバランスを取りながら立てていきます。また、古い枝と新しい枝と相対するものを共存させていくことが立花の有り方を示しています。立花は「花のオーケストラ」とも「宇宙を表現している」とも言われます。複雑かつ数多くの姿を持つ花や枝葉が織りなすハーモニーと空間ことが立花の魅力です。」

午後からは、各班ごとに異なった真を用いて、たくさんのお花材を使いながら、実際に立花を行いました。洲崎先生からアドバイスをいただき、試行錯誤しながら立てている姿が印象的でした。「習うより慣れろ」、二の足を踏まずにまずはやってみることが大切であるを感じました。（文責家本）



法話インターネット配信について

新型コロナウイルス感染拡大の影響で、各種学習会や研修会等が延期や中止となっております。外出せずとも教えの言葉に触れる機会として、インターネット配信の法話をぜひご活用ください。法話や教えの言葉などをお手持ちのパソコンやスマートフォンから観ることができます。詳細は、真宗大谷派（東本願寺）ホームページや真宗会館ホームページを検索ください。



『神奈川四ヶ組行事予定表』

《神奈川四ヶ組》

【神奈川連合組会・総会】

【日時】

八月三十一日（月）～九月一日（火）

— 各法要（おつとめ・ご法話）のご案内 —

2020年6月～8月

～どなたもご自由にお参りください～

盂蘭盆会法要 午後1時30分より

7月14日（火）・15日（水）

【法話】松林 了 師

（岡崎教区第17組 西岸寺住職）

真宗門徒にとって「お盆」とは、亡き人から案じられている我が身であったことに目覚め、あらためて、人間として賜ったいのちや生きる意味を問う「聞法の機縁」といっていただいております。皆様とご一緒に、お盆を仏法聴聞の機会として、亡き人々からの尊い呼びかけに応えていきたいと存じます。どうぞご参詣ください。

《暁天講座のご案内》

【日時】8月22日（土）

午前6時30分～8時15分

【講師】大澤絢子 氏

（大谷大学真宗総合研究所東京分室PD研究員）

【講題】親鸞の「顔」はいくつあるのか

【参加費】無料 ※事前申し込みは不要です。

【日時】8月23日（日）

午前6時30分～8時15分

【講師】長谷川琢哉 氏

（東洋大学・井上円了研究センター研究助手）

【講題】「井上円了の親鸞」

【参加費】無料 ※事前申し込みは不要です。

両日とも、講座終了後に軽食（パン・豆乳）をお配りします。ぜひ参加ください。

※新型コロナウイルスの感染拡大の状況を受け、下記の行事を中止させていただきます。

【中止】

定例法話会（6月9日・28日）

正信偈の会（6月9日）

グリーフケアのつどい（6月13日）

同朋の会・おみがき会（6月20日）

定例法話 午後1時30分より

7月9日（木）川崎組 智願寺 中尾 学 師

7月28日（火）別院 輪 番 坂田智亮 師

8月9日（日）横浜組 西教寺 伊藤大信 師

8月28日（金）別院 輪 番 坂田智亮 師

※7月より再開予定（6月1日現在）

グリーフケアのつどいのご案内

【日時】8月8日（土）午後2時～

10月10日（土）午後2時～

突然起きてくる人間の悲しみに共感を求めてグリーフケアを行なっています。

※参加費・申し込みは不要です。

詳細はチラシをご覧ください。

正信偈の会が始っています！

【日時】7月9日（木）10：30～12：00

8月9日（日）10：30～12：00

正信偈（同朋奉讃式）のお稽古を行ないます。初心者歓迎！参加無料です。

※前日までに電話等で申し込みください。

編集後記

さて、六月に入り梅雨の季節が近づいてきました。新型コロナウイルスの感染拡大が続いていますが、季節は確実に初夏へと向かっています。別院では三月、四月、五月六月と行事をお休みや延期することになりましたが、やはり行事のない、人の往来のないお寺は寂しいもので、色々と考えさせられます。仏事離れが加速すると言われておりますが、やはり、お寺という場所はお寺に門徒さんが参詣し集っていたら、はじめてお寺がお寺として機能するということです。当たり前のことですが、今一度大切にしたいと思います。また新型コロナウイルスが終息したとしても、以前のような日常生活が戻ることも難しいかと思っています。しかしながら、お寺として、別院として発信し続けることが大切だと思っています。皆様のご参詣をお待ちしております。

（家本）